

【1】 学校教育目標と重点目標 「明るい学園 美しい心」

学校教育目標	(1) 人格の形成 ・自然に親しみ、生命を守り育てる農業教育を通して、知・徳・体のバランスの取れた豊かな人間性を育てる。 ・個々の生徒の持つ能力を發展させ、自主的精神と実践力に富んだ、創造性溢れる人格の形成を目指す。 (2) 社会人としての資質の向上 ・自らに誇りを持ち、平和で民主的な社会を目指す社会人としてふさわしい資質を養う。 (3) 職業観の確立 ・一般教養やマナーを身につけさせると共に、農業や勤労体験を通して、正しい職業観を身につけさせる。
中・長期的目標	(1) 農業の持つ教育力を通して、体験的に自然環境や生命の大切さを身につけさせる。 (2) 地域に根ざした信頼される学校づくりをすすめる。 (3) 自ら学ぶ力を身につけ、進路希望が実現するように支援する。 (4) 社会常識やマナーを身につけ、社会で自立できる人材の育成に努める。
今年度の重点目標	(1) キャリア教育について理解を深め、さらなる推進を図りながら、進路実現に向けた支援を行う。 (2) 学力向上、学力保障の体制を整える。 (3) 明るい学校を目指すため、積極的に活動を展開し、コミュニケーション力を養成する。 (4) 人権尊重の視点に立った学校づくりを推進する。

【2】 今年度の重点活動及び総括

重点目標	該当部署	評価項目 (重点活動)	評価の観点 (具体的活動内容)	自己評価	自己評価に関する分析 (来年度に向けて)
キャリア教育・進路指導支援	(1) 農業科全体	キャリア教育の充実	10のコースが特色ある授業を展開し、プロジェクト学習、校内及び校外実習、資格取得、地域交流などを通して勤労観・職業観及び職業人としての基礎的な能力や資質を身につけるように指導する。	A	10コースが特色ある授業を展開できた。プロジェクト学習ではワインブドウ・綿花など地域と連携した研究活動が増え、内容が充実してきている。キャリア教育では就業体験学習の機会を増やすことができた。来年度からは須坂創成高校として新学科、7コースの特色を生かして、関連の企業への就業を進めるため、今後も継続して取り組んでいきたい。生徒自身がコース学習で取り組んできた専門分野の内容を生かして、キャリアデザインを描き、進路実現につながるように、計画・実行・評価・総括をしっかり行いたい。
	①園芸科	勤労観の養成	栽培の基礎知識・技術の習得と職場体験や校外活動に積極的に参加させ勤労観を養う。	B	園芸作物の栽培の基礎知識や技術が習得できた。フラワーデザインコースは校外での緑化活動や実習、イベント装飾を行い、勤労感が養うことができた。しかし、果樹科学コースと野菜科学コースは校内実習や第2農場の研究活動の充実には留まった。
	②食品科学科	地域産業の理解と地域連携の推進	特色ある地域資源を生かし、地域との連携を深め、商品開発に向けた活動を進める。	A	コース実習や課題研究において、ワイン・果物や農産物加工・地域酵母の探索など、特色ある地域資源を生かし、更に商品化に向けて取り組むことができた。今後も、様々な地域資源の活用について研究して地域との連携を図りたい。
	③農業経済科	資格取得の推進と積極的研究活動	各種検定上位級の合格を目指した指導を行う。校内外で研究活動を充実させ、研究成果を積極的に発信するとともに、企業との共同研究及び連携事業を進めていく。	A	日商簿記検定2級1名・3級7名の合格者が出た。新水稻品種「風さやか」の研究は農ク県大会・北信越大会で最優秀賞を受賞し全国大会に出場した。高山村・信州大学と連携した綿花栽培も順調である。地粉を使った加工品の販売を県内外で行いとても好評であった。

	④造園科	地域連携と職業意識の深化	地域と密着した特色ある授業を展開する中で、職業に対する意識を深めさせる。	A	3級造園技能検定の実技練習では地元造園業者から継続した指導を受け技術向上を図った。長野県建設業協会の協力のもと鉄筋コンクリート打設など土木実習や、サッカー競技場芝生など視察した。コース週間では地元造園業者での現場実習により造園業に対する職業理解を図り、5名が造園関連会社へ就職し、造園業への職業理解が進んだ。また臥龍公園桜樹勢回復実習、奥田神社緑化整備事業など地域が抱える課題に密着した活動も継続して行うことができた。
	進路指導係	進路に対する意識を高める	企業研修、企業訪問、農家研修、進路講話等を通じキャリア教育を推進しながら進路に対する意識を高める。	A	3年生に対して、個別指導等を中心に進路実現に向けてきめ細かな指導を行った。また進路講話・各種研修等など様々な機会を通じて社会人としての心構えや、地域にどう貢献していくのかを考えることができた。
	教務係	キャリア教育推進のための支援	キャリアウィーク特別時間割の作成に当たって、キャリア教育担当者・学年・教科等との調整を行い円滑な推進を支援する。	A	キャリアウィーク期間に、生徒の進路実現に向けた講話等を企画して、有効なキャリアウィークを行った。
	3学年	進路実現への具体的取り組み	企業見学(研修)、オープンキャンパス、進路講話その他進路学習等を積極的に行い、自分にふさわしい進路選択の取り組みができる環境を整えていく	A	生徒自身が進路実現に向け、積極的に取り組み、進学、就職ともほぼ希望通りの進路実現ができた。
学力向上・学力保障	(2)	国語科	「話す・聞く」力の向上	A	授業でスピーチの練習を行ったり校外での発表を経験したりして、相手に伝わりやすい話し方を意識してできる生徒が増えた。また板書を写すだけでなく、自分で要点をメモできるようになった。
	地歴公民科	授業での学力向上、学力保障	授業内容、授業方法の工夫をしながら、基礎知識を理解させ、定着を図る。	B	授業内容を精選しつつ、小テストや読み書きの確認なども行なっている。基礎力の理解・定着のためには、繰り返しが必要である。
	数学科	授業内容の定着、個別指導の徹底	授業内容の定着を図るため、少人数の習熟度別授業を展開し、補習や個別指導を行う。	B	標準単位を下回る単位数で行っている為、少人数講座編成、プリント・補習・追試などの対策を講じているが、基礎力の定着が不十分な生徒もいる。基礎力の定着が不十分な生徒には複数回の追試験を行った。進学希望の3年生には個別に対応した。
	理科	授業内容の定着、学力保障	中学の学習内容を含めた授業の内容、指導方法を工夫し、基礎知識の定着を図る。	B	各単元毎に、中学校で学習した内容を確認したり、時には、中学校での学習を再度学習してから進めることもあった。興味を持たせることはできたが、知識の定着を図るためにより一層の指導が必要であった。
	英語科	「読む・書く」力の向上	単語練習(テスト)や音読練習(テスト)を継続する中で基礎力の向上や英語を前向きに使おうとする態度を身につけさせる。	B	基礎力を付けて英語に対する苦手感を軽減できたが、上位の生徒を伸ばす指導が必要である。
	家庭科	基礎的な技術・知識の定着	知識として学んだことを、実習を通して身につけられるよう働きかけ、基礎的技術の定着を図る。	B	実習や模擬体験によって興味を持たせることはできたが、実生活に結びつく知識の「定着」を図るためにより一層の指導が必要であった。
	芸術科	授業内容の定着	生徒一人一人に応じた具体的な個別指導を行い、授業内容の定着を図る。	B	実習を通じて基礎内容の理解を確認しつつ、個々に応じた指導を行った。実技の経験が少ないと鑑賞力も身に付かないので、実技で様々な経験を積み学ぶことを続けていきたい。
	保健体育科	基礎体力の向上	体力作りのための運動を毎時短時間行い、基礎体力の育成を図る。	A	スポーツテストの結果等で体力向上が見られた生徒が多数いる。授業はじめの短時間ではあるが、積み重ねが大切と感じた。
	農業科	農業に関する基礎的・基本的な知識の習得	農業の各分野に関する基礎的・基本的な知識を習得させる。	B	生徒1人ひとりがコース選択のための農業分野に関する基礎的・基本的な知識の取得から、コース学習で専門分野の内容を理解する知識の定着につながる仕組みづくりについて、再検討する必要がある。

	3学年	朝学習の主体的な取り組み3	毎日継続して粘り強く取り組み、基礎学力の向上を図る。特に苦手としている分野にも力を入れる。	A	朝学習に関しては、チャイムの合図とともにほぼ着席でき、毎日落ち着いた雰囲気の中で時間を過ごすことができた。
	学習指導係	学力向上・学力保障の体制作り	「学ぶ姿勢」をつくり「基礎学力」をつけるとともに、補習の充実を図る。	B	朝学習は各学年によつての受け取り方に違いが見られるようになったので、検討が必要と感じた。進路実現に向けて、早めからの補習が必要と感じた。
	生活指導係	学ぶ姿勢、学習習慣をつける指導の徹底	入学当初から、学年および学習指導係と連携し、組織的指導を実施してきたものを継続する。	B	学年との積極的な連携において、ほぼ目的を達成できた。
	教務係	朝の基礎学習を含めた毎日の学習活動及び行事の計画と実施	年間計画の下、日頃の教育活動を通じて生徒が成長できるよう授業・行事が滞りなく行えるよう各部署と連携して計画し、実践する。	A	伝統の「朝学」は、創成高校の須園キャンパスの1・2年生徒ともに実施、朝一番の取り組みで授業へ臨む姿勢と遅刻防止の効果があつた。 日々の授業・各教育行事は年間計画にしたがって行うことができた。
(3)	3学年	社会の一員となる態度の育成	卒業を意識し、自らの言動に責任を持ち、社会の一員として周囲に溶け込んで責任を果たしていくために、周りへの気配りに努め、礼儀正しい挨拶や相手の立場に立った考え方で行動する。	A	社会人として必要な人格形成に向け、挨拶、言葉使い、態度などおおむね身につけることができた。これからは、自分自身で考えながら行動することを期待したい。
	生徒会	生徒自ら行う挨拶運動の推進	執行部や委員会の立ち番活動での挨拶運動や、日ごろの学校生活における挨拶全般を推進し、生徒全員が自ら進んで挨拶できるように指導する。また、教職員も生徒に積極的に挨拶することで、その実現を後押ししてもらう。	A	生徒会選挙によって選ばれた園芸高校最後の役員が中心になって活気ある活動を行った。生徒が自主的・自発的に活動を行うことができた。
	農業クラブ	コミュニケーション能力の向上	校外イベントに積極的に参加し、農業クラブをPRしながら、コミュニケーション能力の向上を図る。	A	例年行つて来ている善光寺花回廊、県緑の基金等校外との関わりを持って活動を出来た。園芸高校の農産物販売をするなど、PR活動も行った。こうした活動の中、生徒は積極的に校外の方々とコミュニケーションをとることが出来た。また、プロジェクト活動で全国大会出場することもできた。
	農業科全体	地域に開かれた学校づくりの推進	専門高校としての特色ある事業を展開し、地域との交流を深め、開かれた学校づくりに取り組む。	A	信州すざか農業小学校では、小学生に対して農業の技術指導を実施した。本年度で5年目となる長野電鉄との緑化に関する協定では、これまで施工した緑化プランの管理を中心に実施した。また、昨年度より高山村、高山村農業委員会、信州大学繊維学部及び本校による高山村の綿花栽培にかかる連携協働の取り組みを実施している。地域のイベント（農場生産物・加工品の販売、須坂市クリスマスクチャーでの生徒発表、飾花・植栽活動等）で、今年も大勢の生徒が地域の行事に参加した。コース週間・夏期・春期における企業研修（キャリア教育）では、多くの地元企業にお世話になり、生徒は現場での体験を通して人間的に成長できた。今後も須坂創成高校として、地域連携を継続し発展させたい。
	生徒指導係	学ぶ姿勢、学生としてのとるべき態度の指導強化	場をわきまえた礼節のある身だしなみとコミュニケーションがとれるように指導する。	A	学生としてとるべき姿勢と礼節・挨拶についてはほぼ達成できており、来校者から高く評価されている。引き続き生徒に働きかけてコミュニケーション能力の向上を図りたい。
(4)	全生徒 全職員	人権尊重の視点に立った学校づくりの推進	あらゆる教育活動において、人権が尊重される学習活動を通して日常的な人権教育を推進し、生徒が互いのよさや可能性を認め合える仲間づくりを行う。生徒が安心して学べる環境を創れるよう教職員の人権意識の高揚を図る。	A	日々の学校生活の色々な場面において、教職員一人一人がもつ公正な人権感覚で、生徒の個または集団の規範意識を高めることを目指した。教職員の姿勢と生徒自らの規範意識が、学校全体に良好な影響と関係を与えている。

コミュニケーション能力養成

人権尊重の推進